

20. 患者とのコミュニケーション

濱野 孝
ハマノ眼科

●はじめに

コンタクトレンズ (CL) 装用者の老視処方には、少なからぬ煩わしさを伴うものである。なぜならそこには、老視用 CL 自体の問題と、患者とのコミュニケーションの問題が存在するからである。前者については、いずれの老視用 CL であっても、患者の調節力を回復させるような光学系をもっているわけではない。そして、処方の方法は単焦点 CL とは異なる。一方、患者とのコミュニケーションの問題にはどのようなものがあるだろうか。患者が老視についての知識を十分もっていないこと、老視矯正方法の知識不足から矯正に抵抗感をもっていること、老視矯正による遠近の見え方が理解しにくいことなどが考えられる。本稿では、患者とのコミュニケーションが円滑に運ぶ方法を提示する。

●老視への気づき

日常診療において、患者から発せられる「近くが見づらい」「ピントが合うまでの時間がかかる」といった日常生活における近方の見え方への不便さや不安を察知した場合に、医師は質問を通して丁寧な説明をして信頼関係を構築していくことが、その後の老視矯正を円滑に進めるうえで重要である。患者が老視を自覚していない、もしくはそれを認めたくないとする反応を示すことも多くあるが、そのような場合においては、たとえばスマートフォン使用時の見え方や肩こりの有無、眼の疲れ¹⁾などの日常生活における状況や症状を確認し、患者自身にも老視症状を認識してもらうことが必要になる。

ただし、あらかじめ種々の検査により、その症状が老視によるものかどうかを判定しておく必要がある。近視過矯正、遠視低矯正、斜位あるいはドライアイなどが原因で、老視に似た症状が現れている場合もある。

●老視症状の説明

老視については、表 1 に示すように、「誰にでも起きる症状」「近くを見るときは目の中の筋肉が緊張して働

表 1 患者へ老視症状を説明するときの表現例

- ・誰にでも起きる症状である
- ・近くを見るときは目の中の筋肉が緊張して働き続けている
- ・近くを見るときはピントを合わせようと負担がかかっている
- ・1日中ピント合わせようと目が疲れてしまっている
- ・ピント合わせ、見える範囲、調節力、など

表 2 コンタクトレンズでの老視の対応策

1. コンタクトレンズ と眼鏡 (近用または遠用) の併用
2. コンタクトレンズの球面度数を中間距離に設定
3. コンタクトレンズによるモノビジョン法 (優位眼を遠用、非優位眼を近用に設定)
4. 遠近両用コンタクトレンズの使用

(文献 2 より引用)

き続けている」などの言葉を組み合わせたり、眼球模型を使ったりして、わかりやすく説明することが大切である。なお、老視を認めたくない患者に対しては、その心理に配慮し、寄り添う姿勢で、「老視」や「老眼」という言葉を持ち出さないことが良好なコミュニケーション構築につながる。

●老視の矯正方法の紹介

老視症状や年齢、CL、眼鏡使用歴などをもとにして、患者にとって最適な矯正方法を選択する必要がある。

CLでの老視への対応方法²⁾は、CLと眼鏡を併用する方法、CLの球面度数を中間距離に設定する方法、CLによるモノビジョン法³⁾、そして遠近両用CLを使用する方法の4つが考えられる(表2)。

CLと眼鏡を併用する方法には、遠方視用に球面度数を設定したCL装用上に近用眼鏡を処方する方法と、近方視用に球面度数を設定したCL装用上に遠用眼鏡を処方する方法がある。

CLの球面度数を中間距離に設定する方法は、調節力の不足分を補うために球面度数を遠方度数よりもプラス側に設定し、遠方の見え方がやや不良となることと引き換えに、日常生活にあまり不便のない近方の見え方が得

られるようにする方法である。

モノビジョン法とは、眼の調節力が減衰したときに、片眼は遠方が、他眼は近方が見やすくなるように左右それぞれの明視域をずらして、両眼解放時の明視域を広げ方法である。通常は優位眼を遠方、非優位眼を近方用として矯正する。両眼に単焦点CLを使用する方法だけでなく、単焦点CLと遠近両用CL、あるいは両眼に遠近両用CLを使用する方法もある。

遠近両用CLの使用は、調節力の不足分を補うために、近方視用に加入度数を設定した遠近両用CLを両眼に処方する方法である。屈折状態により満足度は異なる⁴⁾が、近年、利用できるCLの適応範囲が広がっている。遠近両用CLはその光学特性から、単焦点CLや眼鏡とは見え方の質が異なる。このような遠近両用CLの特性を理解して処方することが、患者満足度を高めるために必要である。

●おわりに

老視患者が見たい対象が何であるか、距離はどれくらいか、頻度や時間はどれくらいかなどを患者から具体的に聞き取ることは、それに続く視力矯正を円滑に進め、良好なコミュニケーションを構築するうえで大切である。

文 献

- 1) 井手 武：老視と眼の疲れ。あたらしい眼科 **27**：309-315, 2010
- 2) 塩谷 浩：老視。あたらしい眼科 **32**：1427-1428, 2015
- 3) 濱野 孝, 濱野 保, 濱野啓子ほか：モノビジョン法による老視対策—毎日使い捨てソフトコンタクトレンズを用いて—。日コレ誌 **57**：24-28, 2015
- 4) 渡邊 潔：遠近両用ソフトコンタクトレンズの処方方法 (2)。あたらしい眼科 **7**：971-972, 2008

☆

☆

☆

一人ひとりに、近くから遠くまで、より自然でクリアな視界を。

個々人の年齢や屈折の状態により瞳孔径は異なります。そんな瞳孔径に最適なレンズ光学部を設計したことで、近くも遠くも自然でクリアな見え方を追求しました。新発想デザインで患者の見え方をサポートするワンデーアキュビュー®モイスト®マルチフォーカル。



ワンデーアキュビュー®モイスト® マルチフォーカル

◎コンタクトレンズは高度管理医療機器です。眼科区による検査・処方をお願いします。特に異常を感じなくても定期検査は必ず受けるようにご指導ください。
◎患者さんがコンタクトレンズを使用する前に、必ず添付文書をよく読み、取扱い方法を守り、正しく使用するようにご指導ください。

ジョンソン・エンド・ジョンソン株式会社 ビジョンケア オープンイノベーション 東京都千代田区西神田3丁目5番2号 販売名:ワンデーアキュビューモイスト 承認番号:21600BZ700490000 登録商標 ©2019 J&J